

---

# 少年少女爆発 少年Aサイド

白金千乃

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少年少女爆発 少年Aサイド

### 【Zコード】

N7741Y

### 【作者名】

白金千乃

### 【あらすじ】

青春爆弾の傍らで起きた、連鎖反応。

最近俺の友人が可愛い子に目をつけられた。

「どうした？」

— 1 —

見事なローリングソバット後、何故か頭を撫でられお礼を言つてしまつ。

少女が去った後、友人は唸りながら立ち上がる。

「いやあ、見事だつたな」

「てかお前、本当に何したんだ？」

「だから何も……でも何か今日は勞られた？」

自分でも理解できていらない状況を、回りが分かるはずも無い。まあ、面白いのならば傍観をしていようと思つ。

「うええ……寝過ぎた」

時間は昼休みがもう終わるころ。

中庭で昼寝をしていて寝すぎてしまつたらしい。

まあ、予鈴が鳴る前でよかつたと思ひながら伸びをする。

少し強い風が吹き抜けた。

「あ

視界に映つた一人の少女。

そして、宙を舞いちらりと落ちていく白い紙。

きれいだ。

素直にそつ思える光景がそこにあつた。

よく見ると、少女の姿には見覚えがある。

あの友人に技をかけに来た少女と一緒にいた子だ。

そして、内の学年でも1、2を争う美少女。

俺的には、美人というより可愛い方があつと思ひ。ふわりとした雰囲気や、いかにもお嬢様、といったところが。

何をしてるんだろう、と見ていると、少女は上履きのまま地面に飛び出した。

「どうやら先程の風で飛んだ紙を集めているらしい。」

ふと。

立ち止まつたのは池の前。

よく見ると、池の上に一枚、白い四角がふわりと浮いている。

池のふちから手を伸ばしても届かない距離。

池の深さは、確かにそんなに深くはなかつたとは思つ。

少女は暫く池の前で迷つてゐるよつだつた。

が、一人うなづくと。

「え」

大人しそうに見えた少女は、どうやらすこしく大胆だつたようだ。

上履きを脱ぎ始めた少女を見て、思わず俺は立ち上がつてい

た。

だ。

「ちょい待つた!!」

「え」

めた。

がし、と肩をつかんで、今にも池に足を入れそうな少女を止

驚いた少女は、田線をこちらへと向ける。

遠めで見てもそうだったが、彼女はいたく綺麗だった。

長く伸びた黒髪がふわりとゆれ、その下の肌は対照的に白く。ぱちりとした目は、不思議そうにこちらを見つめていた。

思わず見とれそうになるが、はつとして。

「俺が取るから、とりあえず上履きはいて！」

「え、ええ、そういうわけには」

「いいのいいのー汚れちゃうでしょ」

大胆な上に真面目であつたか。

た。

言葉では聞きそつたないので、すぐさま行動に移すことにして

上履きを吐き捨てるよつに脱いで、池に足を踏み込む。浮いていた紙を拾い上げ、すぐに戻った。

紙は水に濡れているが、そこそこ頑丈な紙だったらしく破れたりはしていなかつた。

「よし、乾かせば大丈夫そうだな」

「ありがとうございます、助かりました」

「どういたしましてー」

「やべー。」

予鈴が小さく聞こえてきた。

このままでは俺も彼女も授業に間に合わない。

「これ、何処にもってくの？」

「あ、職員室です」

「よし、じゃ行こう。」

んだ。

彼女の持つ残りのプリントを持ち、空いた手で彼女の手を掴

もたもたしている暇は無い。

「全力疾走ー！」

「ふわっ！ー！」

濡れた足が冷たかったが、気にせずに思いっきり走った。  
一度目のチャイムが鳴るまで、もう少し。

「お前は……」

いつものため息を吐く教師を見て、はは、と軽く笑つておく。  
何時ものこととはいえ、お説教は勘弁して欲しい。

「そりかつかしないで、ほりプリント持つてきたんだし」「あの、汚れたのも遅れたのも私がプリントを池に落としてしまったからなんです」

教師が言葉を言つ前に、俺の隣で彼女が頭を下げた。  
いつもならもう少し言葉があるのに、今回は仕方ない、といつた様にため息を吐いて。

「とりあえず授業始まってるから急いで教室にいけ。お前は足拭いてからな」

「ありがとうございます」「え、何で先生何時もより優しくない?」「田代の行いとだけ言つておこづ」「何それ!?」

何か納得はいかないけど、隣でくすりと笑う顔を見ると得した気分になつたのでよしとしよう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7741y/>

---

少年少女爆発 少年Aサイド

2011年11月23日12時57分発行